

第44回日本死の臨床研究会の記録

大会長講演

- | | |
|---------------------------|------|
| 1. ホスピスアイランド四国からのメッセージ | 中橋 恒 |
| 2. 死の臨床と私 — 言葉をすくう 言葉ですくう | 井上実穂 |

主題メッセージ

- | | |
|-------------------------|------|
| 1. 三途の川の渡りかけ— 山折哲雄からの宿題 | 山折哲雄 |
|-------------------------|------|

特別講演

- | | |
|--------------------------------|-------|
| 1. 辞世の句ってかっこいい | 夏井いつき |
| 2. 子規の最期— 深い愛に包まれて | 竹田美喜 |
| 3. 死は人生の物語を躍動させる | 柳田邦男 |
| 4. 末期がんの息子を看取って、変わった思いと変わらない思い | 関本雅子 |
| 5. 「見るなの禁止」について— 物語と歌から学ぶ | 北山 修 |

特別企画

- | | |
|----------------------------------|------|
| 2. 「ホスピスのこころ」— 日本のホスピス50周年記念特別講演 | 柏木哲夫 |
|----------------------------------|------|

シンポジウム1 日本人にとっての幸せな死とは パート2

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| 1. 日本人にとっての幸せな死とは パート2 | 座長コメント 山岡憲夫・豊田邦江 |
| 2. 「幸せだ」それとも「幸せだった」？— 幸せな死の姿を探る | 尾山光美 |
| 3. 日本人にとっての幸せな死とは パート2 | 郷堀ヨゼフ |
| | 今井洋介 |

シンポジウム2 地域おこしは人育て—愛媛県モデル事業の紹介

- | | |
|------------------------------------|------------------|
| 1. 愛媛県在宅推進モデル事業を持続可能にした要因を探る | 座長コメント 中橋 恒・木村祐輔 |
| 2. 愛媛県在宅緩和ケアコーディネーターの育成とその活動の持続可能性 | 中橋 恒 |
| 3. 在宅緩和ケアコーディネーターの役割と地域の変化について | 吉田美由紀 |
| 4. 八幡浜市の地域おこしに生かす緩和ケア—地域おこしは人育て | 清水建哉 |
| | 森岡 明 |

シンポジウム3 日本人の死生観に基づいた地域での看取り

- | | |
|---------------------------------------|------------------|
| 1. 日本人の死生観に基づいた地域での看取り | 座長コメント 足立誠司・田淵順子 |
| 2. 日本人の死生観— 台湾と日本のスピリチュアルケアの違いを通して考える | 丸山典良 |
| 3. 人が人として生きる／死ぬとはどういうことか？ | 玉置妙憂 |
| | 安藤泰至 |

シンポジウム4 地域で取り組む遺族ケアの課題と可能性

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1. がん患者の家族と遺族のための分かち合いの場から | 座長コメント 松本陽子・坪田信三 |
| 2. グリーフケアを学び、活動に活かす | 竹内 香 |
| 3. 地域で取り組むグリーフケアの可能性 | 秋川雅与 |
| | 吉田美由紀 |

シンポジウム5 子どもと死

- | | |
|-----------------------------------------|-------------|
| 1. 「死ぬ子」と「死なれる親」 | 座長コメント 小澤美和 |
| 2. ゆらぎの中にある子どものチカラ— がんの親を看取る子どもから教わったこと | 細谷亮太 |
| 3. 死別を生きる子どもたち | 小嶋リベカ |
| | 西田正弘 |

パネルディスカッション 日本人の中のスピリチュアルケアとは

- | | |
|---------------------------------|------------------|
| 1. キリスト教の視点からの日本人のスピリチュアルケアの可能性 | 座長コメント 谷山洋三・中橋 恒 |
| 2. 日本と日本人とスピリチュアルケア | 窪寺俊之 |
| | 鎌田東二 |

- | | |
|--------------------------------|------|
| 3. 初期仏教におけるスピリチュアルケア | 石川勇一 |
| 4. 私が考えているスピリチュアルペインとスピリチュアルケア | 山崎章郎 |

ワークショップ

- | | |
|--------------------------------------------|-------|
| 1. 死の臨床家のためのセルフケア— 自分へのマインドフルネスとコンパッション | 藤田一照 |
| 2. 喪失を体験した人を知る— 相手と自分を大切に伴走すること | 小嶋リベカ |
| 3. 介護者のためのエンドオブライフケア | 小澤竹俊 |
| 4. いのちのバトンリレー— 看取りのケアの中でバトンがうまくつながるようにお手伝い | 平山司樹 |
| 5-1 岡田史乃「十二月」を読む— 辞世の句に寄せて | 加藤直克 |
| 5-2 辞世の句— 「辞世の句」による魂の救済 死によって立ち現れる真の自己 | 五島高資 |

教育講演

- | | |
|---------------------------------------------|----------|
| 1. 自殺へのまなざしを共に考える | 尾角光美 |
| 2. 地域包括ケアの担い手を育成するために— 死を前にした人にあなたは何かができますか | 小澤竹俊 |
| 3. 禅から学ぶ生死の智慧 | 藤田一照 |
| 4. 日本の看取り文化から何が学べるか (スピリチュアルケア部会) | カール・ベッカー |

ランチョンセミナー

- | | |
|--------------------------------------|------|
| 1. がん患者の体験する異界への配慮 | 岸本寛史 |
| 2. 日野原先生の遺言 | 川越 厚 |
| 3. 予期せぬ死— 死者の人権を守り、残された人々の悲嘆のケアへの架け橋 | 末永和之 |
| 4. しの世界へようこそ！ 絵本にみる“死”の世界 | 井上実穂 |

セミナー

- | | |
|-----------------------------------------------|-------|
| 1. 遺族ケアガイドライン 松岡弘道 | |
| 2-1 親を亡くす子どもに寄り添う— 子どもに死の理解を促す小冊子, アクティビティの紹介 | 白石恵子 |
| 2-2 親を亡くす子どもに寄り添う— アクティビティの紹介 | 大沢かおり |

震災関連企画 東日本大震災から12 年を経て

渡邊真紀

パネルディスカッション (ありかた特別委員会企画)

- | | |
|----------------------|------|
| 1. 日本死の臨床研究会のあゆみ | 末永和之 |
| 2. 人とのつながり コミュニケーション | 高澤洋子 |
| 3. 拠り所になれる研究会 | 三枝好幸 |

国際交流広場 1 シューベルト療法— 音楽とケアが出会う時

Claire Oppert (クレール・オペール)

国際交流広場 2 クリエイティブ・ワークショップ

— 音楽はどのようにケアに携わる人たちを癒すのか

Claire Oppert (クレール・オペール)

企画委員会企画シンポジウム 真の援助者を目指して

座長コメント 平方 眞・横山幸生

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 私の礎 | 山田珠穂 |
| 2. ソーシャルワーカーの立場から | 太田多佳子 |

教育研修委員会企画ワークショップ

死の臨床に活かすコミュニケーション— 緩和ケアの鍵は、コミュニケーション

長澤昌子

市民公開講座

看取りから芸術へ— ピアノコンサート& 親子トーク

智内兄助・智内威雄

事例検討

1. 常に丁寧な態度の中で壁のある患者が守りたかったもの—意思を尊重することとは 妹尾真知子, 他
2. 「ギブアップ! もう終わりにしたいんですけど」
—スピリチュアルペインを有した患者の看護からの学び 須藤利恵子
3. 最後まで「家に帰りたい」意思を表出したAYA 世代終末期がん患者との関わり 小原陽那, 他
4. 独自に薬剤調整をする利用者のスピリチュアルペイン 門屋邑香
5. 思いのほか症状が安定していたA 氏の「役に立ちたい。やりたいことが見つからない」を支える関わり 前澤美代子
6. 終末期の緩和療法に関わる意思決定支援—本人・家族の思いに寄り添うとは 上林由加利, 他
7. 残される子どもへの医療者の懸念を患者本人や家族に伝えることに難渋した事例 岩城隆二
8. CCU から自宅へ直接退院し、最期の15 時間を過ごされた心不全の事例 清藤千景
9. 家族に迷惑をかけないため、病院で最期の日々を過ごすことを選択した患者の意思決定を支える葛藤 安藤由美子
10. おひとり様の生きおさめを支えるホスピスケア 太田亮子
11. 遺族がたびたび緩和ケア病棟を訪れた意味から、緩和ケア病棟における遺族ケアを考える 岩倉俊子, 他
12. 希死念慮をもちながら患者の終末期を支える夫
—共にがんを患う高齢夫婦への支援について考える 篠原 瞳
13. 透析継続についての意思決定支援に関してチーム内での合意形成に課題を残した胃がんの1 事例 松浦将浩
14. 患者の最善を考える意思決定支援とは
—「死んでもいいから」と手術を切望した壮年期女性からの学び 真上美千子, 他
15. 補完代替医療を選択してきた患者への在宅における支援 平川未来, 他
16. 怒りの強いがん終末期患者のスピリチュアルケア 濱田知香子, 他
17. 在宅療養で希死念慮を訴える慢性呼吸器疾患患者のスピリチュアルペインを考える 松村 舞
18. 夫の死を食い止めたい妻への対応に苦慮した看護管理者の不全感 神信美砂
19. パーソナリティ障害を有するがん終末期患者との関わりを振り返る 古川浩美
20. 介護者が役割を果たせない状態から多職種で介入し、緩和ケア病棟で看取りとなった1 事例 橋野陽子
21. 終末期の家族ケア—夫と死別する妻への支援 大垣 梢, 他

原著

1. 血液がん患者へのアドバンス・ケア・プランニングの実態と看護師の実践知 藤本実希, 他
2. 血液悪性腫瘍治療における意思決定プロセスに関する研究 郷堀ヨゼフ, 他

調査報告

1. がん患者が悪い知らせの受容過程において認識した認定看護師・専門看護師の看護実践 今方裕子, 他
2. 認知症グループホームにおける入居者本人の看取りの意思決定支援モデルの開発
—認知症支援者へのインタビュー調査から 橋本美香